●金沢蓄音器館を訪ねて……その圧倒的存在感に……

◆金沢蓄音館ののたたずまい

◆手入れの行き届いた名器がずらりとお出迎え

金沢は祖先の地ということもあり，何度か訪れたことはありましたが，金沢蓄音器館を訪ねたことはありませんでした．今回，3月14日に開通した北陸新幹線に乗って，再び金沢を訪れる機会がありましたので，金沢蓄音器館にも行ってみることにしました．金沢蓄音器館は，JRの金沢駅からも近い（バスで約10分）尾張町にあり，三階建ての瀟洒な建物で，全階で蓄音器とSPレコードの展示が行われています．

この金沢蓄音器館は，金沢市内で長年レコード店を営んできた故八日市屋　浩志氏が収集してきた蓄音器540台，SPレコード約2万枚の「山蓄コレクション」を基に，平成13年7月に開館されました．ここでは，県外からの寄贈コレクションも含め，音の変遷を実際に耳で聴けるよう手入れが行われています．

金沢蓄音器館では，収蔵する約600台の蓄音器のうち150台が展示されています．そして，その展示品のなかから十数台を2階のフロアーに展示し，解説と蓄音器によるデモが行われています．解説とデモは，約1時間弱で，毎日3回行われ，八日市屋　浩志の子息で，当館の館長である八日市屋　典之氏が行います．

解説とデモの概要

まず，エジソンが開発した蝋管蓄音器が紹介され，再生音も演奏されました．蝋管蓄音器はフォノグラフといい，明治10年にエジソンが発明したもので，直径2.25インチ，長さ4インチの円筒にしたものの表面の蝋に溝を掘って音を記録し，ゼンマイで蝋管を回転させ針で溝の変化を再生するものです．紹介された蝋管蓄音器は，「アンベノール30型」で，良く見る円錐形状の金属製ラッパが上に出たものではなく，写真のように，ラッパと回転部が一体になったものです．

当初，この蓄音器を聴いた人は，蓄音器の中で人間が歌っているのではないかとフォノグラフの中を見たそうです．

このフォノグラフに対抗して，ドイツのベルリーナは，明治20年（1887年）に円盤レコードによる蓄音器グラムフォンを発明しました．ベルリーナの発明した円盤レコードは，エジソンのフォノグラフが音を縦振動記録したのに対して，横振動を利用しました．グラムフォンは，フォノグラフに比べると，マスプロに向き，安定した忠実な音再生などで優れていた点が多くありました．両者の音質について，エジソンは一流アーティストを使わなかったが，ベルリーナは一流アーティストを使ったこともグラムフォンの評価を一層高めた要因かもしれないと八日市屋氏は述べられていました．

エジソンは，その後もフォノグラフに固執し，その改良を続けましたが，1991年に円盤式レコードを開発しました．エジソンはこの円盤式蓄音器をダイアモンド・ディスクと命名しました．この蓄音器は，垂直振幅方式を継承し，針先をダイアモンドとし，レコード盤の厚さを6mmとして安定度を図りました．

ここでは，ダイアモンド・ディスクL-35が展示され，デモ演奏も行われました．

次に紹介されたのは，時代を一気に進めて，昭和26

◆エジソンの蝋管にも感激すること間違いなし

◆館長：八日市屋氏と筆者（右）

年（1951年）日本コロンビアが開発した「ポータブル・モデルG241」です．この蓄音器は，蓄音器のポータブル化を目的に長いラッパを曲げて，長いラッパと同等の長さとし，ラッパ管の径を徐々に大きくし，開口部を大きくしたものです．この蓄音器の価格は，当時12,000円だったそうです．この蓄音器では，ベニーグッドマンの演奏が再生されましたが，かなりの音質でした．

ポータブモデルの次に紹介されたのは，一転して，最高級の米国製の大型コンソールタイプの「ビクトローラ　グレデンザVE8-30X」です．この蓄音器は，1925年～1930年に販売され，当時，これ一台で家が建つと言われるほどの高価なものでした．当館には，この蓄音器は4台あるそうです．展示品は前田家（元加賀藩主）から寄贈されたもので，低音を補強するため，アンプ内蔵に改良されています．なお，今年の11月にはアンプを新しいものとして，現在の前田家当主も出席されて，披露される予定だそうです．

つづいて，「英国グラムフォンのHMV Model 194」，同じく英国の「EMG　エキスパート・シニア」が紹介されました．前者では美空ひばりのリンゴ園の少女が豊かなリアル感で演奏されました．

後者のエキスパート・シニアは，1935年（昭和10年）の製品で，外部型のホーンを取付けたもので，ラッパの口径は，横500，縦600mmの縦長の紙製です．このラッパの紙はロンドンの電話帳から作られていると言われています．また，SPレコード盤はモーター駆動により回転します．この蓄音器では，ビングクロスビーの歌が演奏されましたが，歌手が際立って前面に出るのが特長です．この紙製ホーンに刺激されて，金沢でも電話帳で紙のホーンが作られましたが，この紙製ホーンと金属製ホーンを差し替えてのデモ演奏が，最後に披露されました．

その他，「ブランズウィック」，「日本ビクターのビクトーラJ1-81」も紹介と演奏が行われました．

なお，デモに使われたSPレコードは，カビのあるものはカビキラー洗剤で除去し，シリコンを塗布するなど入念な手入れが行われているようです．また，SPレコードの中には使用回数が多くなるとレコード盤の下の紙が現われ音質に影響することから使用回数を極力制限しているようです．

質の高い蓄音機

金沢蓄音器館で印象的だったのは，デモに使われた蓄音器の再生音の大きさです．これまで，私は，今回の展示品と同種の蓄音器の音を聴きましたが，金沢蓄音器館の展示された蓄音器からのSPレコードの再生音は，遙かに大きいのです．当館の蓄音器やSPレコードは丁寧な手入れが施されているとはいえ，何か違いがあるのでしょうか．また，当館では，所蔵の蓄音器とSPレコードをステレオマイクでデジタル録音したCDも当館で販売されおり，これを購入して再生したところ，蓄音器館での再生音とは全く異なるものでした．やはり，SPレコードの再生は良く手入れされたSPレコードと蓄音器でなければ，本当のSPレコードの音は再生出来ないと改めて感じました．

（中川浩一）